

社会環境学部学びの特徴

環境と防災を学び持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成しています

社会環境学部では、環境問題の解決や社会の安全確保のための社会システム構築に貢献できる人材の育成を行います。環境や防災などの問題に興味を持ち、社会の抱える課題解決にむけて的確な知識と判断力を身につけながら、持続可能な社会づくりに貢献したい方に学びの場をご提供します。

1 環境・防災・地域の問題解決に、社会科学と理工学の視点からアプローチ

学部には自然科学、工学、社会科学、情報学などの分野で研究実績を有する教員が所属し、**環境・防災・地域の諸課題に関する授業・ゼミ・実習・学外活動**を行っています。これらの諸課題に関わる知識などを多様な視点から学ぶことで確実に視野が広がり、将来に活かすことができます。環境・防災・地域の諸課題は広く社会の重要課題であるとともに、私たち一人ひとりにとって将来の仕事や暮らしに直接関わる重要課題でもあります。なお、各分野の学びをより一層深めるため、**2年次より自然科学を中心とする「環境・自然再生コース」**、または**工学・社会科学を中心とする「防災・地域安全コース」**のいずれかに所属します。「環境・自然再生コース」では、所定の単位を修得すると、**中学・高等学校の教員免許(理科)**を取得することができます。



防災・地域安全コース

工学・社会科学の視点から**地域の安全・安心に関わる防災や地域環境問題**を学び、防災や地域の持続的な発展に寄与する知識・技術を身につけます。



環境・自然再生コース

理学・工学の視点から**環境保護・再生**について学び、人と自然との共生に関する知識と実践的な技術を身につけます。



※環境・自然再生コースでは、中・高の理科教員の教員免許状の取得が可能

2 豊富な実習・実験、フィールド調査を通して実践的に学ぶ

学部では座学とともに、現場主義に基づいて様々な体験型・実践型の授業や活動を行っています。授業では**実習(自然体験実習・富士山巡検・水文学実習・防災教育実習)**や**実験(基礎化学実験・環境化学実験・生命理解のための化学実験・物理学実験・生物学実験・地学実験)**が専門科目として配置され、学内には**動物飼育室・機器分析室・地球科学分析室・マグマ実験室・細胞培養室**などの実験施設・設備が充実しています。また、数多くのゼミで個別のテーマを設けて学外での体験・実践活動を行っています。

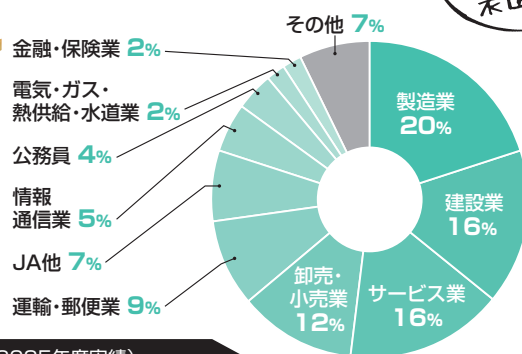
さらに学部全体で、松崎町での**棚田保全活動**や長岡市での**中越地震被災地研修**のような募集型の体験・実践活動にも取り組んでいます。



詳しくは裏面へ!

3 多様な進路実績

卒業後は**行政職員**などの**公務員**や**専門職**を初め、多様な業種・職種への進路実績を残しています。また、環境や防災のより一層専門的な研究に取り組むため、併設の**環境防災研究科**など大学院へ進学する人もいます。



卒業生の就職実績(2025年度実績)



特徴的な

学部の学び、 取組、ゼミ活動、 研究活動の紹介

被災地研修

防災



2004年新潟県中越地震の被災地復興支援及び被災地の長期復興過程を調査する。

富士山巡検

環境

地学

生態系

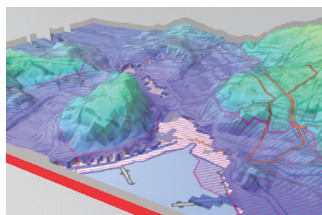


富士山周辺の自然環境(地形・地質、生態系)の観察を通じて、フィールドワークの基礎を学ぶ。

シミュレーションによる 津波被害や避難行動の解析

防災

情報学



避難経路図 3Dマップの作成と津波からの避難行動を分析する。

プラスチックによる環境汚染の調査

環境

化学



地域河川や海岸でプラスチックごみやマイクロプラスチックを調査し、環境・水質調査の基礎を学ぶ。

棚田保全ボランティア

地域

環境



西伊豆の賀茂郡松崎町にて、畦切り、田植え、収穫を体験し、棚田の保全と地域づくりを学ぶ。

防災とSDGsについて学ぶ イベントの企画運営

地域

防災

環境



静岡市や富士市で、学生が中心となりイベントを企画運営、発表する。

微生物を利用した環境浄化、製品開発

環境

生物学



微生物の代謝を活用したレアメタルリサイクル技術を開発する。地域の環境や資源から単離された新規酵母を利用して新製品を開発する。

耕作放棄地を利用した 大豆栽培と加工食品製造

地域

環境



安全性や環境負荷を意識した無農薬大豆栽培と、加工食品の製造体験から、地産地消やSDGsについて学ぶ。

植生調査・生物調査

環境

生態系



富士山麓における植生を調査する。地域環境に生息する水生生物、鳥類、昆虫を調査する。

実験動物による機能性食品の評価

環境

生化学

生理学



茶葉や大豆に含まれる成分による脳卒中予防効果などを遺伝子組み換えマウスを用いた動物実験で検証する。

社会環境学部が使用・管理している特別実験室や設備

化学・分析化学



機器分析室 所有機器

- ガスクロマトグラフ質量分析計：農薬、医薬品、環境汚染物質の分析
- 原子吸光光度計：金属類の分析
- PCR：遺伝子の解析
- イオンクロマトグラフ：地下水や雨水中のイオン成分の分析
- 高速液体クロマトグラフ(蛍光、紫外可視、示差屈折率検出器)：有機化合物の分離分析
- ガスクロマトグラフ：アルコールの測定
- 赤外分光光度計：プラスチックの分子構造推定
- TOC計：全炭素濃度の測定

生物・生命科学

動物飼育室



ラットやマウスの飼育・実験

細胞培養実験室



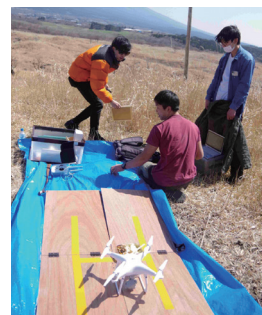
細胞や微生物の培養・実験

その他の実験室(地学)

- 地球科学分析室
- 岩石鉱物実験工作室
- マグマ実験室

その他の設備

- 走査電子顕微鏡
- マイクロプレートリーダー
- 紫外可視吸光光度計
- グロースチャンパー
- オートクレーブ
- 測量機
- ドローン
- ArcGIS



測量機やドローン、水質計など屋外での調査に必要な設備も整備されている。